

総合的な学習の時間（環境活動）活動案

日時 平成17年10月 4日(火) 2校時
児童 第5学年4組 男子 20名 女子 17名
授業者 教諭 小野寺 桂 一

1 題材名 「 広げよう 絆の輪 ～ 農業・自然との絆を深めよう ～ 」

2 目指す子ども像

学校教育目標

個性を生かし、心豊かにたくましく生きる子ども

「たくましく」「やさしく」「ねばりづよく」「かしこく」

学年の目標

絆を深めて広げよう 仲間の輪 ～ 進んで活動し、思いやりの心をもって高まり合う子ども

- (1) 自らの考えをもち、進んで取り組み築き合う子
- (2) 相手のよさを認め合い、協力して高め合う子
- (3) よりよい取り組みを目指して、創造的に取り組み広げる子

5年生の児童は、昨年度の「総合的な学習の時間」で「YOSAKOI ソーラン」の踊りを調べ、自分たちで踊りをつくる活動に、下学年と合同で取り組んでいた。その中で、自分たちの課題を見つけ、課題を追究するために何が必要で、どのような方法が必要であるかを考え、下学年と動きのある楽しい踊りを完成させていた。「自ら学び、自ら考える力や学び方、ものの考え方などの確かな育成」につながった学習であったと考える。

今年度は、昨年度に培ってきた力をより確かな力に向上するために、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「コミュニケーション能力」「情報活用能力」「自己の生き方を考える力」を本題材を通して高め、(1)自らの考えをもち、進んで取り組み築き合う子(2)相手のよさを認め合い、協力して高め合う子(3)よりよい取り組みを目指して、創造的に取り組み広げる子を育成していきたいと考える。

3 題材について

5年生の「広げよう 絆の輪」では、農業体験活動や農業に関わる調べ活動を通して、自分たちの自然環境を大事にしなが、生活していく心や態度を学ぶことを目的としている。

また、5年生の社会科では、「食料生産を支える人々～農業のさかんな地域をたずねて～」の学習がある。その中には「稲作農家の仕事を調べ、自然環境との関わりや、生産を高めるための工夫・努力をとらえるとともに、消費者の願いに応える米づくりが進められることに気づくことができるようにする。」というねらいがある。机上の学習ではこのねらいには、なかなか到達できないと考える。今回、この社会科の学習の発展を、「総合的な学習の時間」の学習にもとめた。活動計画の段階で、昨年度も畑の「でんすけすいか」づくりのアドバイザーとしてお世話になっていた当麻町農家の方のご協力で、水田をお借りし「田植え」「稲刈り」を体験できるという好機会に巡り合うことができた。直接子ども達が米づくりとかかわり合う体験活動等を通して、農作業の喜びや工夫を肌で感じ、疑問や不思議に思ったことから課題をもって調べ活動をし、広く自然環境を大切にす様々な知識や態度を身につけさせたいと考える。

4 学級の実態

(1) 日常の子どもの様子

生活 ・明るく元気に挨拶や返事をし、楽しく学校生活を送っている子が多い。

・身体を動かすことが好きな子が多く、積極的に体育的活動をしようとしている。

・係りや当番活動などで意欲的に取り組むが、指示を待つ傾向にある子がいる。

・声をかけ、仲間と協力し、事を進めようとする子が限られている傾向にある。

・自分のことを第一に考え、周りの子との協調を考えない子がいる。

学習 ・与えられる学習課題については、自ら解決することを理解しようとし、学習に積極的に取り組む子が多い。

・話し合いになると、自らの考え・意見をもとうとする子が多いが、人の考えや意見に左右される傾向にある子がいる。討論の深まりや広がりがほしい。

- ・自分が理解できないことを理解できるまで追究しようとする子が少ない。
- ・基礎学力の個人差があり、個別的な学習が必要な子がいる。

(2) 「環境」に関わる子どもの様子

「自然環境」を大切にすることというのは、なかなか意識していない子がみられるが、本校で実践しているゴミの分別、ペットボトルの回収、紙や牛乳パックのリサイクルなどに対する普段の意識は高まっている。また、学年園で栽培している作物を育てることにより、自然環境の豊かさが植物の発育や成長に影響していくことも学んでいる。

5 「総合的な学習の時間」で身につけたい力（評価の観点）

- (1) 自分の課題をもつ力 …… 課題設定の能力
- (2) 活動の見通しをもつ力 …… 問題解決の能力、学習への主体的・創造的な態度
- (3) 情報を活用できる力 …… コミュニケーション能力、情報活用能力
- (4) 多様な考えができる力 …… 学び方、ものの考え方
- (5) 自己発見できる力 …… 自己の生き方

6 指導計画

(1) 単元の目標

米作り体験や米に関する調べ活動を通して、農作業の喜びや工夫を知る。

身のまわりの自然環境を大事にしながら、生活していく心や態度を身につける。

(2) 単元の流れ

	児童の主な活動	形態	教師の支援・評価・留意点
第 1 次 2 5 時 間	オリエンテーション ・昨年度の活動を振り返り、今年度自分たちが身につけたい力を考える。 ・今年度の取り組みを考える。	クラス	・アンケート調査（活動内容調査、活動方針決定） （評）自分の課題をもつことができたか。
	稲作の一年調べ ・お米ができるまでの農作業の流れを理解する。 ・米づくりに対して疑問に思ったこと、農家の方に質問してみたいことを整理する。	クラス グループ	・社会科の「農業のさかんな地域をたずねて」の学習から発展的な課題をもてるようにする。 （評）自分の課題をもつことができたか。 （評）情報を整理することができたか。
	田植え体験 ・稲の苗を手作業で植えることから、根気のいる作業であること実感する。 ・米づくりに対して疑問におもったこと等を農家の方に質問し、あらたな課題をもつ。	学 年	・田植えを手作業であることから、「機械化」の意味を理解させる。 ・田植えに至るまでの苗作り・土づくりや今後苗を丈夫に育てるために、必要な水管理等の努力や工夫を理解させる。 （評）田植え体験に積極的に参加することができたか。 （評）自分が疑問などに思ったことをしっかりと伝えることができたか。 （評）田植え体験からあらたな課題をもつことができたか。
	米にかかわる調べ学習 ・自分たちが調べたいことをしぼり、課題をはっきりとさせ活動する。 【予想される活動グループテーマ】 米の種類（品種改良）について 世界の米について 稲作の歴史について 米を使った食品について おいしい米の作り方について	学 年 グループ	・課題に対しての調べ方を理解させる。 【本・インターネット・家族に聞く・専門家に聞く など】 ・課題に対して解決する見通しを理解させる。 ・調べ方や調べ理解したことを記録に残すことを理解させる。 （評）自分の課題をもつことができたか。

	児童の主な活動	形態	教師の支援・評価・留意点
第1次 25時間	米が食卓にあがるまで(米の流通)について ・調べ活動してきたことを、自身の新聞としてまとめ、発表する。	学年グループ 個人	(評) グループの人と話し合い、多様な考えで課題を追究することができたか。 (評) 様々な情報を整理し、必要な情報をまとめることができたか。 ・自分が調べ知ったことをわかりやすくまとめ、伝えさせる。 (評) 自分の考えをはっきりと伝えることができたか。
第2次 22時間	米にかかわる調べ学習 ・自分たちがあらたに調べたいことをしぼり、課題をはっきりとさせ活動する。 【予想される活動グループテーマ】 米の種類(品種改良)について 世界の米について 稲作の歴史について 米を使った食品について おいしい米の作り方について 米が食卓にあがるまで(米の流通)について + 米の栄養と健康にかかわって 米の成長と環境問題について など 【本時】 ・調べ活動してきたことをまとめ、発表する。 稲刈り(+はさがけ+脱穀)体験 【調べ学習中途の活動】 ・手作業の大変さを体験しつつ、やり遂げた時の達成感や満足感を味わい、農家の方の喜びや願いを理解する。	クラスグループ クラスグループ 学年	・第1次で調べた以外のことについて、あらたな課題をもち、広く深く課題を追究することを理解させる。 ・第1次で調べていたグループの資料から発展的な課題をもつようにさせる。 *各テーマ追究とともに、自然環境に対するあり方についての考えをもたせる。 ・課題に対しての調べ方を理解させる。 【本・インターネット・家族に聞く・専門家に聞く など】 ・課題に対して解決する見通しを理解させる。 ・調べ方や調べ理解したことを記録に残すことを理解させる。 (評) 自分の課題をもつことができたか。 (評) グループの人と話し合い、多様な考えで課題を追究することができたか。 (評) 様々な情報を整理し、必要な情報をまとめることができたか。 ・調べ知ったことをわかりやすくまとめ、自然環境に対する考えやあり方を伝えさせる。 (評) 考えをはっきりと伝えることができたか。 ・稲刈りなどを手作業ですることから「機械化」の意味を理解させる。 ・稲刈りに至るまでの様々な水田管理の努力や工夫を理解させる。 (評) 稲刈り体験に積極的に参加することができたか。 (評) 稲刈り体験からあらたな課題をもつことができたか。
第3次 5時間	年間の反省+次年度の課題 ・今までの学習をもとに、米作りから自然環境について考えたことを実践していこうとする。 ・来年度の活動の課題を確認する。	クラス	・一年間通して活動してきたことを振り返らせる。 (評) 自分にできることを進んで考えようとしているか。

7 本時の学習 (21/22)

(1) 目標

- ・米にかかわる自分たちが調べてきたことをわかりやすく伝えることができる。
- ・調べてきたことから自然環境に対する考えやあり方を深め合うことができる。

(2) 展開

	児童の主な活動	教師の支援・評価・留意点
つかむ	<p>1 農業体験してきたことを振り返る。</p> <p>2 本日の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「お米っていいな」を発表し合い、おいしいお米をなくさない(たやさない)ためにできることは何かを話し合おう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「田植え」「稲の成長」「稲刈り」「脱穀」など農業体験してきたことを振り返らせる。 活動写真や稲の成長記録写真等を活用する。
さがす	<p>3 テーマグループ毎にお米について調べてきたことやお米に対する考えやあり方を発表する。</p> <p>【テーマグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米の種類(品種改良)について 世界の米について 米を使った食品について おいしい米の作り方について 米が食卓にあがるまで(米の流通)について <p>4 お米をなくさない(たやさない)ためには、自分たちができることの意味を交流する。</p> <p>【予想される意見交流の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候にあった土地で米作りをしている。豊かな土づくりや米をつくる土地を確保することが大切。 おいしい米作りには、豊かなきれいな水が必要だから、川の水を汚さない・きれいにすることが大切。 汚れた空気の中では、稲がよく育たないきれいな空気が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてきたことを端的にわかりやすく発表させる。 ・発表しているグループの考えや意見の根拠をしっかりとらえさせる。 ・わからないことは質問させる。 <p>(評) 自分たちの調べたことや意見をわかりやすく伝えているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認め合うことは認め合い、よりよい自然環境のあり方を深めさせる。 <p>(評) 互いの意見を認め合い、考えを深め合うことができたか。</p>
まとめる	<p>5 発表・意見交流活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や意見交流を振り返り、お米をなくさない(たやさない)自然環境のあるべき姿や自分たちでこころがけていきたいことをまとめる。 	<p>(評) 自然環境のあり方に対する考えをもつことができたか。</p>

(3) 評価

- ・米にかかわる自分たちが調べてきたことをわかりやすく伝えることができたか。
(情報を活用し、まとめる力)
- ・調べてきたことから自然環境に対する考えやあり方を深め合うことができたか。
(コミュニケーション能力・ものの考え方)

